

インターネットシナプス

附属図書館長 正村 和彦

かつては様々な情報を得る場所として図書館は重要な働きをしてきました。身近にある唯一の情報源であったと思います。近年、インターネットが日常の情報道具となって、かなりの情報が卓上で得られるようになりました。フリージャーナルという無料で使用できる学術情報も増えています。学生のみなさんは英語力を身につけると情報の世界が圧倒的に増えます。話すことができなくてもいいから、できればもう一つ外国語を読めるようにすると大いに役に立ちます。第2外国語を選択必修科目からはずして単なる選択科目にしている大学は残念です。これはたぶん英語さえできない学生に第2外国語は‘いじめ’でしかないと言う考えなのでしょう。

理系、文系ともに教科書など買わなくても、世界のウェブサイトからかなり専門的資料を得ることができます。広い情報に接すると自分だけで考えていた事柄（独断）が修正されます。ただし、ウェブサイトに乗っている情報は玉石混交ですから、複数の情報を照らし合わせて判断する必要があります。

私は何かを書くとき、または教育の方法や研究のある問題の解決のヒントを得たいと思うときウェブサイトを探します。Googleなどは学術雑誌、ホームページなどが一緒にでてきますので、こんなことを考えている人もいるのかということにも出会うことがあります。創造や問題解決の糸口は無からは生まれません。多くの場合、異なった領域の一見無関係の情報が脳の中でシナプスする（接続）ときに生まれます。このシナプス能力が創造力、問題解決能力であると思います。現代社会では、充分時間があるときに本を読んで、短時間で何か役に立つ情報を得たいときはインターネットシナプスということでしょう。

(しょうむら かずひこ)